

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成26年9月18日(2014.9.18)

【公開番号】特開2013-57519(P2013-57519A)

【公開日】平成25年3月28日(2013.3.28)

【年通号数】公開・登録公報2013-015

【出願番号】特願2011-194551(P2011-194551)

【国際特許分類】

G 0 4 B 19/04 (2006.01)

G 0 4 B 19/02 (2006.01)

G 0 1 D 13/22 (2006.01)

G 0 4 C 3/00 (2006.01)

【F I】

G 0 4 B 19/04 Z

G 0 4 B 19/02 Z

G 0 1 D 13/22 1 0 1

G 0 4 C 3/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月4日(2014.8.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

〔第 1 の実施の形態〕

先ず、図 1 から図 5 を参照しつつ、本発明に係る指針式表示装置の第 1 の実施形態について説明する。

図 1 は、本実施形態における指針式表示装置を適用した時計本体の外観を示す平面図であり、図 2 は、図 1 の II-II 線に沿う断面図である。また、図 3 は、図 2 における右側部分を拡大した要部拡大図であり、図 4 は、図 2 における中央部分を拡大した要部拡大図である。また、図 5 は、図 1 の V-V 線に沿う断面図である。

図 1、図 2 等で示す時計本体 100 は、例えば中空の短柱形状に形成された外装ケース（図示せず）内に収容されて腕時計等として用いられるものである。

なお、以下では、本発明に係る指針式表示装置が、秒針、分針及び時針等といった複数の針を備え、これらの針を電氣的な駆動により回転させて時刻等の表示を行うアナログ式の時計本体に適用される場合について説明するが、本発明を適用可能な実施形態がこれに限定されるものではなく、指針を備える各種機器に適用することも可能である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

環状に形成された外周車と、

前記外周車の環状中心に立設された軸部材と、

一端が前記外周車に固定され他端が前記軸部材に係止され、少なくとも一部分が指針と

して機能するブリッジ部材と、

前記外周車を回転させることにより前記軸部材の軸心を中心として前記ブリッジ部材を回転動作させる針回転機構と、

を備えていることを特徴とする指針式表示装置。

【請求項 2】

前記ブリッジ部材には、電子部品が搭載されており、

前記外周車及び前記軸部材のうち少なくともいずれか一方、及び前記ブリッジ部材には、前記電子部品と電氣的に導通可能な導通部が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の指針式表示装置。

【請求項 3】

前記ブリッジ部材には、電子部品が搭載されており、

前記ブリッジ部材、前記外周車及び前記軸部材には、前記電子部品と電氣的に導通可能な導通部が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の指針式表示装置。

【請求項 4】

前記ブリッジ部材は前記外周車に固定された一端の前記軸部材の軸方向高さが他端の前記高さに対して低い位置にあることを特徴とする請求項 1 に記載の指針式表示装置。

【請求項 5】

前記外周車の浮き上がりを規制する浮き防止手段を備えていることを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載の指針式表示装置。

【請求項 6】

前記軸部材は、固定的に設けられており、

前記ブリッジ部材は、前記軸部材に対して回転可能に係止されていることを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれか一項に記載の指針式表示装置。